

審議会の振り返り

1. 第4回審議会概要

第4回審議会の内容

令和7年度

令和8年度

第1回
(12月)

長期総合計画の概要
市民アンケート及び
企業アンケート結果
人口と産業の動向

第2回
(3月)

前期基本計画
の総括
将来人口推計
後期基本計画
の方向性

第3回
(5月)

市外居住者Web
アンケート
後期基本計画
素案審議

第4回
(7/29)

後期基本計画
修正案審議
パブリックコメント
の実施

第5回
(9/2)

後期基本計画原案
各指標の設定

前期基本計画の総括

後期基本計画策定に向けた審議

第4回審議会概要

日 時：令和8年7月29日（水）
18時30分～20時30分

場 所：塩竈市役所 3階 北側委員会室

出席者：審議会委員 13名（欠席5名）

内 容：

後期基本計画修正案

後期基本計画の素案審議にて、審議会の意見を踏まえた修正案の審議

パブリックコメントの実施

後期基本計画修正案までを反映した後期基本計画（案）のパブリックコメントについての協議

2. 審議会からの意見

分野1（子ども）

- ・子育て世代支援の充実に向け、保育士やこども家庭センターの保健師などの人手不足が制度上の課題であり、そういったソーシャルワーカーの人材活用も含めた勤務形態の柔軟化等の必要がある。
- ・病児保育は、当事者には事前の登録が必要で当日にすぐ利用できないこと、受入側には担い手不足といった課題があることから、制度を進める上での解決策が求められる。
- ・「こども誰でも通園制度」は親にとってありがたい一方、現場ではアレルギー対応などの不安やリスクがあり、受入側の課題解決に向けて議論を進める必要がある。

分野2（福祉）

- ・高齢福祉においては、高齢者だけではなく、高齢者を含めた家族間の問題もあることから高齢者を発端とする問題に対して、切れ目のない（シームレスな）支援として対応が必要となる。
- ・医療費抑制と予防医療の観点から、健診を受けた方にインセンティブを付与し、受診率を向上させる取り組みに目を向ける考えもある。
- ・高齢化の進展により、8050問題から9060問題という表現も出ている。既存の制度の対象にならない人や孤独死の問題が現実起きており、アウトリーチなどの支援の仕組みを検討する必要がある。

分野3（生活）

- ・道路環境について、高齢者が使いやすく、オストメイトにも対応したトイレを増やすなどの環境整備が必要である。
- ・「身近な道路」についての施策表現に、「バリアフリー化等を含めた」という文言を盛り込んでどうか。
- ・本市の狭さをアドバンテージとしながらも、地域公共交通の体系やバスの運行をどうしていくかは大きな課題である。
- ・震災をはじめ、災害時に中心となって活動していた人が高齢化しており、次に発災した場合の担い手や経験などの不足が懸念されることから、防災に関する資格取得などの支援も検討してもらいたい。

分野4（産業）

- ・目まぐるしく変化する水産業の環境において、市場がマグロだけでやっていけるのかなど、今後の5年、10年を見据えた次の一手を打つ必要がある。
- ・観光を産業と結びつけ、新たな産業が生まれ、商売をする人が集まりお金が回るような仕組みを作らなければ持続が難しくなる。
- ・観光においてもBtoCに力を入れ、多様な価格帯の食を提供することで、市内に大きな経済効果を生み出すよう戦略的に育てていくことが大切である。
- ・企業規模によってワーク・ライフ・バランスの温度差があるため、残業チケット制など、企業の取り組み事例を参考に改善を図る視点もある。
- ・学生サークルが塩竈みなと祭に出店して活動資金を稼ぐなどの事例もあり、「稼ぐ力」について基本に立ち戻って活動する動きから学ぶべき点がある。

分野5（交流）

- ・塩竈みなと祭に対するSNS上の反響は大きく、「戻りたくなる」との声も見られることから、神社や離島などの魅力発信を強化すべきである。
- ・新造に合わせて、更新前の御座船を北浜緑地公園などで展示し、船内を見学できるような観光スポットとして活用してはどうか。
- ・釣り人を誘致し観光に繋げるため、海釣り公園のような施設を整備し、有料化による経済効果を狙うのも良いのではないか。
- ・パブリックコメント等において、市外の関心がある人からも意見をもらうことも、関係人口の拡大やファンの獲得に繋がると考える。

分野6（文化）

- ・塩竈みなと祭の陸上パレードにおいて地元からの参加団体が少なく感じられ、シビックプライド（地元愛）の醸成が課題である。
- ・塩竈みなと祭の海上渡御に参加する供奉船について、免許の問題や燃料費高騰により参加が減っているため、補助金額を見直して参加船を増やす取組をしてはどうか。
- ・花火大会において、煙にレーザーを当てるなどの工夫を行い、歴史を感じるような演出を行ってはどうか。

分野7（協働）

- ・ 子ども会や町内会といった地域組織が縮小・高齢化しているため、若い世代が参加しやすくなるよう、ホームページやメール活用など情報化の支援があると良い。
- ・ 縮小していた町内会の夏祭りを復活させ、子どもが喜ぶような企画を立てて実施する動きもある。
- ・ 世代間を越えたコミュニケーションが難しくなっており、世代間交流のあり方を考える時期にきている。
- ・ 子ども会や町内会の縮小を踏まえ、地域組織そのもののあり方を再定義すべき。

分野8（浦戸諸島）

- ・ 高齢となった島民が島で暮らし続けられるよう、買い物支援や医療関係（急病人が出た際の対応時間など）の改善が求められている。
- ・ 市内の子どもたちが社会科見学で訪れた際に「タッチプール」などの体験活動が人気があり、継続して実施していきたいと考えている。
- ・ 市内の子どもたちが浦戸を知る機会として、小学校高学年や中学1年生の間に浦戸4島を巡る体験ができると良い。
- ・ 浦戸諸島は島を見ながら周遊できるポテンシャルがある。島の豊かな暮らしが見えるような情報発信の工夫をすべきである。
- ・ 浦戸振興に係る成果指標の達成率が低いため、地域おこし協力隊や外部の力を結集してテコ入れを行う必要がある。